

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	27	○個別の記録と実践への反映 ・日々の記録が詳しく記録ができていない。 ・気づきや工夫の記録ができていない。	・個別に気づきや工夫を記録する。 ・記録することで、情報の共有を図る。	・職員研修で、観察力、記憶力の向上を図る。 ・申し送り等で、情報交換を図る。	12ヶ月
2	49	○日常的な外出支援 一人ひとりの要望に沿ってなかなか出かけられない。	・できるだけ要望に沿って出かけるようにする。 ・季節ごとの外出支援をする。	・天候の良い日、居住者の体調を考慮し、時間を設ける。 ・職員の勤務を工夫し、支援体制を整える。	12ヶ月
3	45	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望、タイミングで支援するようにしているが、やむを得ずできない場合がある。	・週2回の入浴の1回でも希望に沿えるようにする。	職員の体制を整え、本人の希望に可能な限り対応する。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなるような、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	○身体拘束をしないケアの実践 拘束委員会が中心となり、疑わしい事例について話し合いは行っているが、その後の対策を講じていない。	身体拘束ゼロを目指し、疑わし行為等を発見した場合には、十分な話し合いをし、対策を講じる。	身体拘束委員会が中心となる研修を受講することはもとより、ユニット会議等を活用し、改めて身体拘束がもたらす弊害等を学習し直し、身体拘束の適正化に努める。	12ヶ月
2	27	○個別の記録と実践への反映 日々の記録はできてはいるが、気付きや工夫を個別に記録し、職員間での情報の共有が図れていない。	○24時間シートへの移行 24時間シートに移行し、介護計画に合わせたケアの実施を行い易くし、その中で気付きや工夫を組み入れる。	ユニット会議や個別に、24時間シートについての学習をする。 介護計画に沿ったケアを行う上で、気付きや工夫の大切さを併せて学習する。	12ヶ月
3	45	○入浴を楽しむことができる支援 冬場は寒いからと入浴を嫌がる居住者が多く、夏場よりも回数が減っている。	寒くても、嫌がることなく、楽しみだと思える入浴方法を講ずる。	<ul style="list-style-type: none"> ・浴室、脱衣室をしっかりと温める。 ・入浴剤の利用。 ・季節感を感じる(ゆず湯等)入浴。 	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。